

令和2年度
千葉大学先進科学プログラム入学者選考課題
課題論述
人間科学関連分野 方式Ⅱ
(9 : 30～11 : 00)

注意事項

1. 解答は、すべて別紙の解答用紙に記入すること。
2. 検査室に用意してある辞典を使用できます。
3. 携帯電話、スマートフォンの電源を必ず切ってください。

以下の文章を読んで、問1～問4のすべてに解答せよ。

著作権上の理由により掲載できません

(出典：今井むつみ『学びとは何か―(探求人)になるために』岩波新書、2016年。
一部改変。)

問1 下線部①に関して、私たちの学びの成果を評価する観点として、『覚えた事実の量』を評価されるというテスト」と異なる評価の観点をあげよ。国内や海外で実際に行われている評価の観点でも、あなたが考える評価の観点でもよい。

問2 下線部②に関して、「生きた知識」とはどのような知識か、筆者が「ドネルケバブ・モデル」とよぶ知識と対比させつつ、本文の内容をまとめよ。

問3 下線部③において、筆者は「知識は『客観的な事実』ではない」と述べているが、「事実が客観的ではない」とはどういうことか。母語の習得以外の具体的な例をあげつつ、その例に即して説明せよ。

問4 下線部④に関して、あなたが大学に入学してからつくりたい「新しい知識」とはどのようなものか。また、その「新しい知識」をつくるためには、あなたがこれまで学んできた「知識」や、入学後に学ぶ「知識」をどのように組み合わせることが考えられるか。あなたの考えを自由に展開せよ。